

## 週報

# 感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成29年												平成30年														
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月 ~1日	7月 ~8日	7月 ~15日	7月 ~22日	7月 ~29日	8月 ~5日	8月 ~12日	8月 ~19日	8月 ~26日
カンピロバクター	61	68	80	122	83	118	142	87	98	161	109	84	37	39	48	105	75	71	17	24	22	34	25	33	21	18 (20)	24
病原性大腸菌	107	105	89	113	64	135	206	161	102	112	73	110	66	51	44	98	78	83	16	27	25	25	18	24	22	9 (14)	19
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
サルモネラ	0	1	7	11	10	13	18	29	9	12	16	3	3	1	1	5	3	20	2	1	4	1	4	3	7	1	10
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	11	12	15	9	21	32	17	24	24	9	12	14	11	7	24	10	10	0	4	4	5	3	10	8	3	5
黄色ブドウ球菌 MRSA	16	19	13	17	15	23	27	16	22	19	15	16	12	11	13	12	12	17	2	1	3	5	3	3	1	5	2
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	0	5	9	11	5	14	3	1	0	7	5	3	1	2	1	0	0	1	2	2	0	0	3
ロタウイルス	1	0	1	6	6	3	1	1	0	0	0	0	2	11	18	50	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	7	4	8	6	11	13	8	2	1	3	7	21	13	13	17	4	4	2	1	0	0	2	0	0	0	0	0

\* ( ) は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

\* その他の3件は、アエロモナスでした。

## 広島県感染症発生動向週報

平成30年第34週(8月20日~8月26日)

### 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	11	結核	11		1	4	1	5		
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1					1		
四類	6	日本紅斑熱	3			3				
		レジオネラ症	3	1			1		1	
五類全数	12	後天性免疫不全症候群	1					1		
		梅毒	2					2		
		風しん	6		1	5				
		百日咳	3					2	1	

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町  
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

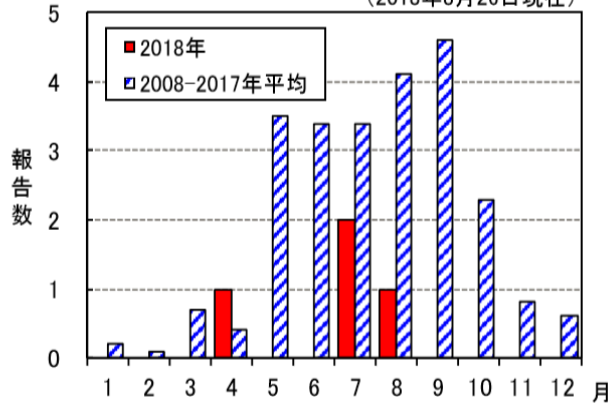
広島県感染症情報センター 提供

## 定点・全数把握疾患週報【広島市】(第34週 8/20～8/26)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数(広島市)

(2018年8月26日現在)



## 1. 腸管出血性大腸菌感染症

1件(O157)の報告があり、今年の累計は4件となりました。例年、気温の高い時期に報告数が多くなっており、注意が必要です。

腸管出血性大腸菌は、感染力が強く、汚染された食品を食べたり、患者や保菌者の汚染された手指を通して二次的に感染します。食品の十分な加熱、手洗いの励行など感染予防対策を徹底しましょう。

## 2. 後天性免疫不全症候群

1件の報告があり、今年の累計は7件となりました。

第33週はお盆期間中で、医療機関の休診の影響により患者報告数が少なくなっている可能性があり、正確な比較ができないため、第34週は「定点把握感染症報告状況(週報対象)」(下表)の発生記号の表示を行っていません。

## ■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
フィレン	インフルエンザ	1	0.03	-	-		小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.70		
小児科	咽頭結膜熱	5	0.21	0.55			眼科	RSウイルス感染症	34	1.42	1.02		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	45	1.88	0.87				急性出血性結膜炎	-	-	0.08		
	感染性胃腸炎	90	3.75	3.65			基幹	流行性角結膜炎	13	1.63	1.36		
	水痘	3	0.13	0.65				細菌性髄膜炎	-	-	-		
	手足口病	31	1.29	2.24				無菌性髄膜炎	-	-	0.23		
	伝染性紅斑	2	0.08	0.25				マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.29		
	突発性発しん	8	0.33	0.51				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	ヘルパンギーナ	18	0.75	0.93				感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-		

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね 1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね 1:1.5~2の増減

微増減 ↖ ↙ 前週と比較しておおむね 1:1.1~1.5の増減

横ばい ⇄ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

## ■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	5	92	女性(40歳代)・1人、男性(50歳代)・1人、男性(70歳代)・2人、男性(80歳代)・1人
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	4	女性(10歳代)・O157
4	レジオネラ症	1	26	男性(60歳代)・市外
5	後天性免疫不全症候群	1	7	男性(20歳代)・感染者
5	梅毒	2	75	男性(20歳代)、男性(30歳代)
5	百日咳	2	35	女性(10歳未満)、女性(50歳代)

## ■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
無菌性髄膜炎	発熱(39.0) 嘔吐 下痢 髄膜炎 頭痛	14	女	2018/07/10	髄液	エコーウイルス18型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.5) 気管支炎	4	男	2018/07/14	鼻汁	ライノウイルス

\* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載